

2026 年 9 月 昭和鯨城会会報 123 号

昭和ニよう会便り



行事レポート

岐阜城(楽市)川原町の古い町並み散策

27期 (生活A) 八事 川上 久美子

5月26日名古屋駅集合に14名が集まり、始まりました。岐阜城からバスで岐阜公園へ。昨年出来たという楽市を歩いていると「インタビューよろしいでしょうか」と黄色帽の小学生に声を掛けられ「名古屋市から」と答えながら周りを見ると、皆さん同じ様に笑顔で受けていました。初めての事で嬉しいハプニング。



展望台から

ロープウェー乗り場で往復の切符を買っていると、片道の猛者2人。帰りは歩いて降りるとの事。昇りながら絶景を楽しみ、降りてから岐阜城迄の300m程の石段の其々が高さと幅が違い歩きにくい事！戦国時代の知恵？レストランの展望台からは、広大な濃

尾平野を堪能。降りると地元の方が「熊に会いませんでしたか？」そう言えば熊注意の看板があり、2日前に出たとの事(吃驚!!)その後川原町散策へ。

細長い町並みを歩きランチ予定の蕎麦屋さんへ。「火曜定休日」の張り紙が(あら〜)そのまま道なりに歩いて行くと「冷やしたぬき天国」という有名な蕎麦屋さんへ。回転が速いと言うのでタッチパネルで14名申し込み。ラインで順番を知らせるとの事で、その場で店員さんがライン登録し今はスマホがないとランチも出来ない？順番が来たと同時に、猛者2人到着。待ち時間なし、流石です(笑)。最初に5人、次に5人その後4人が入りバラバラでも無事蕎麦ランチ終了。ヤレヤレ(^)。会計を済ませ隣の和傘屋を覗くと、二階で手作



川原町風景(蕎麦屋前)



蕎麦屋にて

り提灯の展示が。大小珍しい提灯で目の保養。戻り乍ら無料休憩所で(ういろ)の試食。バス停へ着くとすぐにバスが来て乗車。柳ヶ瀬で下車。シャッター街を歩きながら八百屋さんで買い物したり、岐阜駅へと向かう。到着するとJRは事故で運休(えー!)名鉄へ振替。混雑していて最後は皆さんバラバラです。ハプニングやアクシデント有りの多彩な小旅行でした。参加された皆さん、大変お疲れ様でした。企画をして下さった役員の皆様、素敵な一日をありがとうございました。



楽市風景



岐阜城をバックに



柳ヶ瀬シャッター街

行事レポート

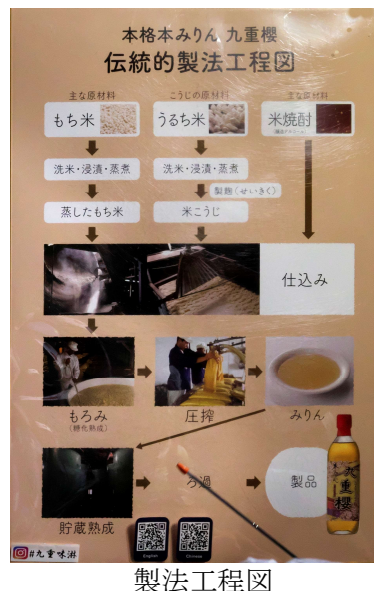
みりん（九重味淋） vs さとう（ウェルネオシュガー）

28 期（美術） 川原 高橋 正子

6 月 10 日（水）21 名が碧南に向かった。味醂と砂糖、共に甘味調味料の製造現場だ。

【みりん（九重味淋）】 安永元年（1772 年）創業の三河みりん発祥の醸造元。みりんの原材料は、もち米・米こうじ・焼酎。衛生帽子を被り、みりん蔵に入る。もろみを圧搾する部屋「ふな場」がガラス越しに見える場所だ。壁にはみりんの製造工程を分かりやすく説明したパネルがある。工程の説明を聞き、もろみを入れて圧搾する 30kg の酒袋を持って模擬体験。ずしりと重みが伝わる。

搾られたみりんを十分に貯蔵熟成するためには、国の登録有形文化財に指定されている黒塗りの総下見板張りの土蔵造りの大蔵が重要な役割を果たしている。地球温暖化で蔵の中の温度を保ちにくくなり、黒塗りの大蔵を白塗りにしなければならないかもと、ガイドさんが心配げにつぶやいた。2 階の時代館に移動。DVD でみりん造りの工程や作業の様子を



記念写真

見た。また、みりんのみりん風味の違いを理解した。みりんはアルコール度 13～14 のものである。

見学の後はお楽しみの K 庵でのランチ。みりんの可能性を広げる工夫いっぱいの、魚のもろみ漬け御膳だ。みりんを掛けて頂くデザートプリンにうっとり。食後は併設の石川八郎治商店でお買い物。満ち足りた心とお腹で次の目的地に向けて出発。車窓から見える古い町並みに癒やされる。

【さとう（ウェルネオシュガー）】 2024 年精製糖メーカーとして日新製糖と伊藤忠製糖を吸収合併しスタートした。広い敷地に工場が点在している。さとうの原材料は、さとうきびやてんさい。世界各地から運ばれた原料糖（粗糖）を精製して製品化する。

集会室で DVD と説明で製造の様子を学び、衛生帽子とヘルメットをつけて見学スタート。原料糖の倉庫（縦 130m 横 68m 高さ 31m）に入った。巨大な砂山そっくりの原料糖 6 万 t が堆積している。圧巻であった。入った途端、喉が狭まるような感覚に襲われた。S さんは咳き込み、早々と倉庫を出た。

この原料糖から不純物を取り除き精製し、多種類の商品を量産する。案内された部屋の壁には機器がはめ込まれ遠隔操作で作業が進められていく。

さとうの袋詰め現場は生憎メンテナンス中でその広さを実感するだけとなった。1 kg の上白糖を土産に頂き、工場を後にして名古屋に向かった。

＊江戸時代からの製造工程を継承し、月日をかけて熟成して造るみりん。原料糖から不純物を精製し、オートメーション化された工場で作られるさとう。

2 つの甘味調味料の製造現場見学はとても興味深いものとなった。お世話くださった行事委員会の皆様ありがとうございました。



原料糖倉庫見学を終えて

行事レポート

名古屋大学博物館とノーベル賞展示室見学レポート

38期（音楽B） 滝川 岩井 君代

2026年7月14日、行事委員会主催の見学会に参加いたしました。当日は晴天に恵まれましたが、酷暑の一日となりました。そのような中、参加者16名が名古屋大学駅改札口に朝9時40分に集合し、見学がスタートです。

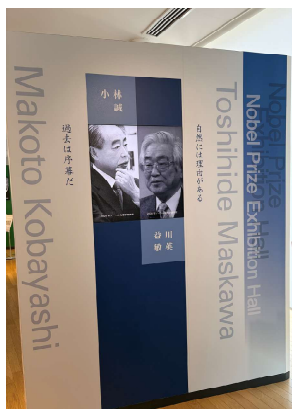
名古屋大学博物館内には電子顕微鏡の原点の紹介や御嶽山の噴火の悲惨さや予兆の捉え方について陳



癒し系ロボット「おもち」

列など自然科学から歴史に至るまで多岐にわたり、好奇心を刺激されます。特に、動物専門のご担当者様による解説が印象的でした。マッコウクジラと木曾馬の骨格標本を見比べながら、同じ哺乳類でありながら環境によって異なる生態について詳しく説明していただき、深い学びに触れることができました。

展示室では、AI搭載のアザラシ型ロボット「おもち」たちを撫でながら、心地よい時間を過ごしました。
ノーベル賞展示室では、素粒子論研究の小林誠博士 生物発光研究の下村脩博士 平田義正博士 坂田昌一博士など、名古屋大学ノーベル賞受賞者の業績の数々を詳細に拝見し、改めてその偉大さに感銘を受けました。



ノーベル賞展示室

昼食は学食で学生たちに混じって列に並びました。賑やかな空気の中に身を置くと、遠い学生時代が胸によみがえります。食後は構内の喫茶店へ。Mサイズコーヒーを注文したのですが、運ばれてきたのは実質Lサイズほどの大きなカップ

で、そのボリュームに驚かされました。久しぶりに心弾む楽しいおしゃべりに花が咲き、学びと懐かしさに満ちた、大変充実した一日となりました。ご準備いただいた行事委員会の皆様に感謝いたします。



博物館前で記念写真



マッコウクジラ骨格標本



食後の喫茶

鯨城会活動

40期(2年生)の皆さんに地域ミーティングを実施

32期 (健康B) 吹上 伏屋 満

令和8年6月11日、昭和区社会福祉協議会(以下「昭和社協」)において、鯨城学園の地域ミーティングを実施しました。このイベントは、来年、鯨城学園を卒業する予定で、昭和区に在住している40期生の方(対象者23名)に対し、昭和鯨城会や昭和社協の活動を説明するものです。今回の参加者は9名でした。また、昭和鯨城会からは会長始め8名が参加しました。



社協による地域福祉説明



昭和鯨城会、鯨城学園、唱和社協 挨拶

始めに、昭和鯨城会・高島会長、鯨城学園・伊藤学務主任及び昭和社協・大原事務局長の挨拶があり、続いて、高島会長が昭和鯨城会の活動を紹介しました。行事や趣味など自ら楽しみ、各自が無理なくできる範囲で、ボランティアなどの地域活動にも参画していることを説明しました。

更に、昭和社協・中園主事からは地域での福祉を担う社会福祉協議会の多岐にわたる活動内容について説明がありました。その1つとして地

域活動を統括し、昭和区ボランティア連絡協議会のメンバーとして昭和鯨城会も活動していることを紹介いただきました。

続いて、ボッチャ競技を体験しました。昭和鯨城会の同好会である「昭和ボッチャひろめ隊」の山影講師(27期)から競技方法とルールの説明を受けた後、昭和鯨城会員も加わり競技を楽しみました。参加者は1名を除いて初体験とのことでしたが、初めてと思えないほど上手でした。

来年、多くの卒業者の方が加入されることをお待ちしております。



講師レクチャー



競技風景

会員の広場

博物館を楽しむ No. 12

小笠原諸島 ホエールウォッチング と 島グルメ

31期 (地域A) 松栄 細野 博行

小笠原は遠い。飛行場がなく船便も「おがさわら丸」が週に1便しか運航しない。乗船時間も24時間と長い。

令和8年2月13日発は東京竹芝桟橋を午前11時に出港し東京湾を出るまでが3時間。右手に大島を眺め八丈島まで夕方となり夕陽が落ちた。波は静かで鳥島を真夜中に通過し、小笠原父島二見港には翌日午前11時に着岸した。東京からの距離1000kmを時速30ノットで運行した。船は1万1千トンで定員は880名今回は550名の乗船とのこと。小笠原は2011年世界自然遺産に登録された。



南島の扇池にて

我々の宿「オーベルジュ・サト」は港から10分ほどと近い。島名物にウミガメ料理とあるので早速郷土料理店へ入り注文した。青海亀の捕獲に特別な許可があり刺し身と煮込み料理を味わう。刺し身は赤身で、煮込みに肺や内臓も入っていたが特徴のない味だった。午後4時に島西岸高台にあるウェザーステーションに行く、ホエールウォッチングの説明ガイドがいて双眼鏡を貸してくれた。2月はザトウクジラが出産子育てのため、北の海から島に来るので観察には絶好だ。

潮を吹くのを見るのだが大海原は広すぎる。目を凝らさずボーとして見ているのが良いそうだ。7頭のクジラの潮吹きが見られた。親クジラは全長14m重さ30トンもあり、子クジラでも4メートルある。夕食はサメ肉のムニエル、鮪カルパッチョ、牛ステーキに、島レモンパスタとどれも美味しい。気温は昼は20℃、夜になっても15℃で過ごしやすい。

島2日目は村営バスで南の小湊海岸まで行く。ウォーキングでコペペ海岸までは遊歩道があり、ここより舗装道となり扇浦海岸を経て町まで8キロ歩いたがそよ風に当たって気分がいい。夕食は刺身(アカムツ・沖マグロ・サワラ)に島寿司(白身魚醤油付け)、アカムツ兜煮と島グルメが満載だった。



3日目は南島上陸とホエールウォッチングのアク

ティビティ(参加費9000円)に参加した。南島は希少な自然の宝庫で上陸には東京都認定の自然ガイドの同行が必要だ。ガイド2名と乗客12名が乗船し、南島までは約20分だ。島は野生ヤギや外来植物で荒らされたが、外来種を駆除するなど保全に務め自然が戻った。扇池は紺碧の海と岩の洞門のコントラストが有名で絶景が自慢だ。ついで船を走らせてザトウクジラの親子を見つけた、子クジラは楽しそうに何回もジャンプし体を反転させている。親クジラが勢いよく潮吹きすると巨体が現れ、躯体を横にして4mもある胸ビレを立てて泳ぐ様子は大迫力だ。船はクジラを追跡してゆくので3時間ほどのガイドツアーには満足できた。午後は町の背後にある大神山公園を散策する。夕食はイタリア料理でムール貝のパエリア、アカムツのカルパッチョ、鱈のホイール焼がでた。

島4日目はもう最終日で出港は15時。波止場では太鼓を演奏して安全な旅の祈願と来島の御礼をしている。帰路の航路も波が穏やかだった

会員の広場

川名公園の四季を詠む

37 期 （地域A） 川原 上野 悟

川名公園をいつもと変わらず平凡な気持ちで散歩しました
行きかう人々も皆平凡で楽しそうでした。公園には風景が
形で見えるものもあり、又心の中で想いにひたるものもあり
ます。

公園を中心に短歌を詠嗜んでみました。短歌は鯉城学園在
学中に「たのしい短歌のクラブ」で勉強をいたしました。未
熟ですが四季を問わずに 14 首ほど詠みました。



川名公園 銘板

- ① 公園でラジオ体操した後で日の出を「拝む」清らかさ
- ② 「区会にて」さがみで食べるモーニングゆっくり語る楽しさよ
- ③ 猛暑にて「イチョウ」の木々も疲れたか秋の実りが落ちてこず
- ④ 夕涼みどこから来たか「コウモリ」が芝葉ギリギリ虫捕まえる
- ⑤ 公園の「ヒマワリの花」時を経し 実種守るか 立ち枯れつよし
- ⑥ 冬来る雑木林の葉が落ちた「うるさカラス」巢のみが残る
- ⑦ 記念樹の「ベニドウダン」の水やり頑張ってるね 永遠に栄よ
- ⑧ 公園の真ん中奔る散歩道 歴史残した飯田道
- ⑨ 師走時西日を浴びた四季桜 桃白色の美々しき花よ
- ⑩ 公園の師走の朝の四季桜「メジロのつがい」小花ついばむ
- ⑪ 風強く落ち葉飛び散るその影に「セキレイ鳥」の尾が跳ねる
- ⑫ 朝日照る「ベニドウダン」の葉も光る「空蟬」多き猛暑の朝
- ⑬ 公園の入り口に咲く「サルスベリ」朝露浴びて紅色ひかる
- ⑭ 公園に秋の訪れ待ちきれず暑い夕暮れ「秋トンボ」飛ぶ



うるさカラス
の巢



記念樹
ベニドウダン



旧飯田街道説明



サルスベリ

名古屋市高年大学 昭和鯨城会

第24回 趣味の作品展

今年も昭和鯨城会会員の皆様の力作が、下記要領にて展示されます。皆様お誘い合わせの上、是非御来場ください。

記

開催期間：令和8年10月27日（火）～29日（木）

時間：初日 10月27日（火）10:00～16:00

2日目 10月28日（水）10:00～16:00

最終日 10月29日（木）10:00～15:00

会場：名古屋市昭和区役所 6階 601・602会議室

（地下鉄鶴舞線・桜通線御器所駅下車 直通エレベーター有り）

・作品搬入日：10月26日（月）9:30～12:00

・作品搬出日：10月29日（木）15:00～16:00

展示作品：絵画、書、短歌、写真、陶芸、工芸、他



展示室内には休憩処を設けています。ご鑑賞後、お茶などを飲みながらご感想をいただきましたらありがとうございます。

編集後記

123号は、2026年度前半の活発な活動の報告と、会員からいただいた投稿を掲載しました。今後も昭和鯨城会への積極的な参加とともに、様々な投稿をお願いします。

昭和鯨城会 「昭和こじょう会便り」 2026年9月123号

発行責任者 高島 善行

広報委員長 伏屋 満 副委員長 中村 誠司

広報委員 杉江 恵理子、桐山 宏之、岩井 芳隆、吉川 緑、中島 永三

表紙写真 「袋物」 小川 由美子（32期 文化A）

作品を考えるまでが時間かかりますが、作り出すと早く仕上げたくて夢中になります。四角いバッグは以前パッチワーク用に切った布を、無印良品で買った物に貼り付けました。

名古屋市高年大学昭和区鯨城会・名古屋市鯨城学園共同発行